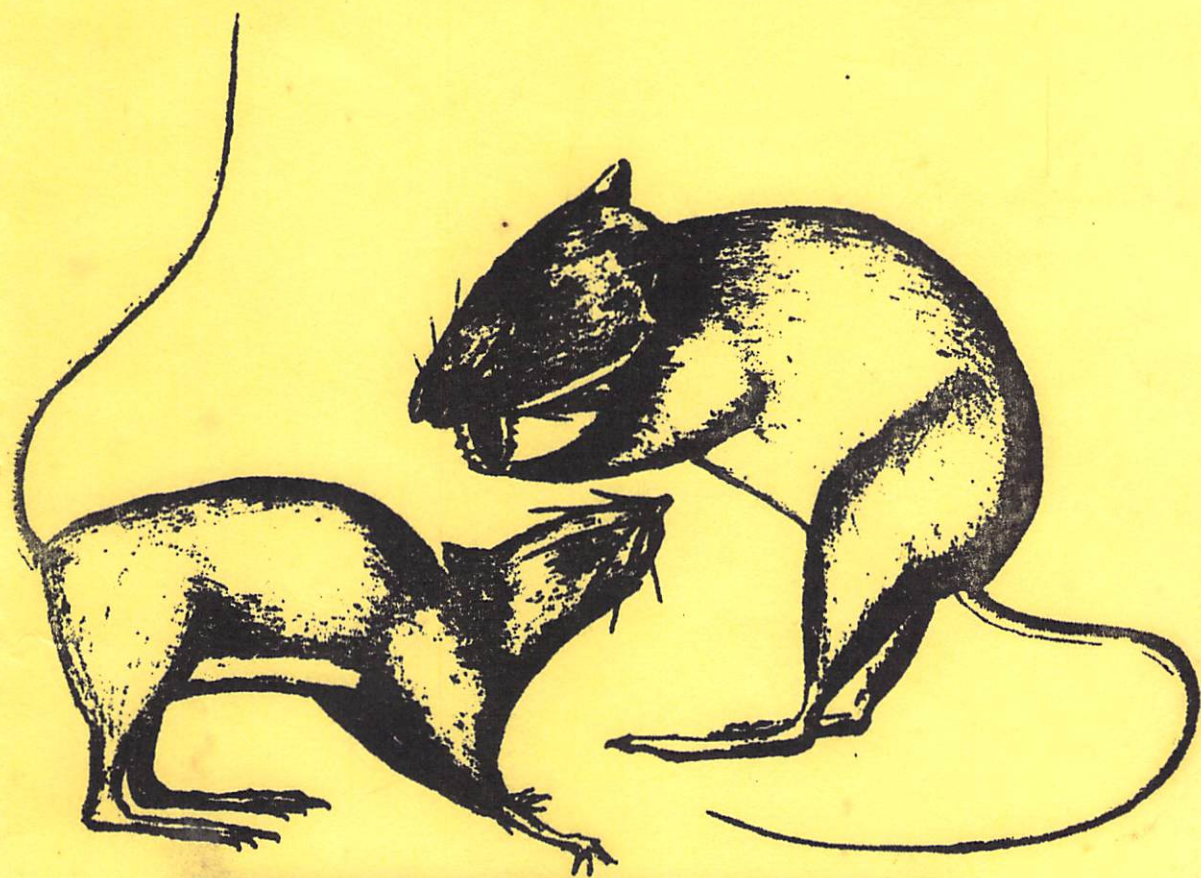


HITOTSUBATAO

No.2

# ヒトツバネ



---

長崎県生物学会対馬支部報

December

1984

# ツシマヒメボタル

内野俊哉

1969年上県町佐須奈で発見され、中根猛彦氏により命名（*Hotaria tsushimana* Nakane 1970）されたもので、対馬特産種である。

これをパパリボタルとする説（佐藤）もあるが、ヒメボタルと同じく後翅を欠くので、中根・大場のホタル目録（1981）に従いたい。

くわしい生態については、研究中であるので後日発表の機会をみつきたいが、ここでは形態、分布について述べることにする。

## 発生・分布

対馬のみにせい息する陸性のホタルで、アキマドボタルとほぼ同じ水平分布を示す。垂直分布は、平地から標高400～500mの上頂まで分布するのが特徴である。

このことは、ヒメボタルの高地から低地までの分布状況と一致している。

出現期は5月下旬から7月下旬までで、地域的に微妙な差がみられ、また標高が高くなるにつれておそくなる傾向がみられる。このことはせい息環境のちがいが、特に気温の差によるものと考えられる。

図は、1983年～1984年の筆者の調査結果を示した。ほぼ対馬全島に分布していることがわかる。上県郡を中心に調査したので下県郡の空白が目立つがせい息していない訳ではない。今後の調査でうめていきたい。

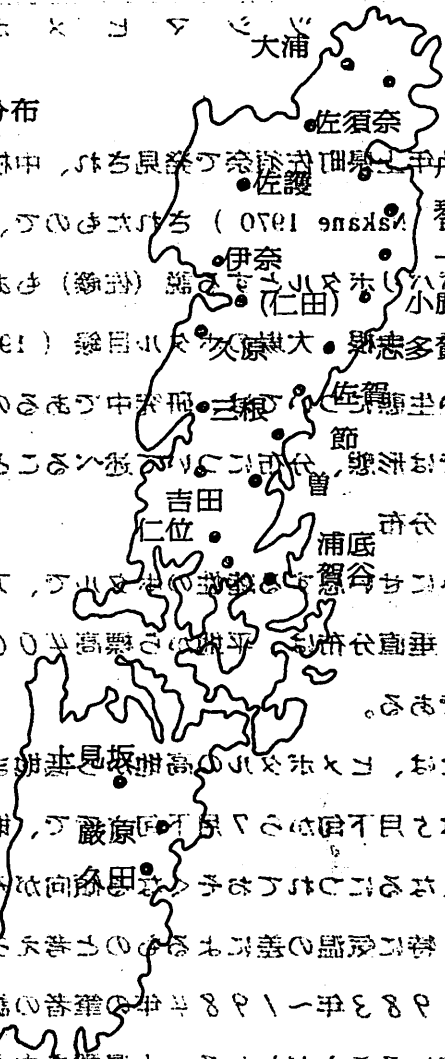
せい息環境は、スギ、ヒノキ、雑木林でクズ、カラムシ等の雑草がおい茂っているところで適度な湿度を保っていることが条件である。低地、高地との差はないが、コンクリートでかためられたがけの近くにはほとんどいない。この点、アキマドボタルのせい息環境とほぼ一致している。分布図のせい息地には必ずアキマドボタルの幼虫を見ることができた。

出現時間は20時30分ごろから22時30分ごろまでで、ピークは22

シマホタルの分布

シマホタルの分布は、本州の東北から九州にかけて広く見られる。特に、東北の山形県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、岐阜県、長野県、山梨県、富山県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長門県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県に分布している。

シマホタルの分布は、本州の東北から九州にかけて広く見られる。特に、東北の山形県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、岐阜県、長野県、山梨県、富山県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長門県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県に分布している。



シマホタルの発光は、雄が雌を誘うための手段である。雄は雌の発光を感知し、近づいて交尾を行う。雌は雄の発光を感知し、近づいて交尾を行う。雌は雄の発光を感知し、近づいて交尾を行う。

一方、♀は草むらで一定のグロー光を発して♂の訪れを待っている。♂の訪れを待っている。♂の訪れを待っている。

知られている。

オキマドマビビ

交尾後伏〜翌日後に、直径0.7mmの球型、とう黄色の卵を約50個

産卵する。

卵は、透明で球形で直径0.7mm、黄色い卵殻がある。卵の殻は厚い。

幼虫は、体長約1mm、透明で球形、黄色い体色、頭の部分が赤い。

体長約1mm、頭部は赤い、胸部は黒い、腹部は黒い、足は赤い。前脚背はとう赤色、(後脚背は黒色の斑がみられるが)個体差がある。メオキマド特有の前縁から、中央にかけの半円形の大きな黒紋は全く独立する。メオキマドは100羽のメオキマド、前翅の毛を強く黒色で点刺され、周辺にわたって微毛が生じている。メオキマドは後翅が退化しているが、飛ぶことができない。メオキマドはメオキマドの卵はメオキマド(前後翅は退化しているが)飛ぶことができないので、分布の範囲が限られて興味深い。メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド

複眼は、♂は大きく発達しているが、(両眼幅は2mm)を維持しなく(同/、4mm)前胸にひきこまれている。

メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド(卵の形状)がメオキマドで育つ。メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド

メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド

メオキマドの研究の一部をとり急ぎ報告したが不明の点も多く残されている。今後メオキマドの研究にまつことが多いため、諸元の批評、協力を得て解明をはかりたい。

アキマドポタル同様、対馬ならではの貴重な存在であるので、その保護も念願するところである。

(仁田中学校)

メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド

メオキマドはメオキマド、メオキマドはメオキマド

(メオキマド)

## ツシマジカ

国分英俊

朝まだ暗い凍りついた道を、スピードをおとしゆっくりと車は進む。水たまりには氷がはり、車輪がのるたびにバリバリと音をたてて割れる。時には氷の上を車が横すべりすることもあり、きもを冷やされる。

ツシマジカを見ることができる場所に近づく。車をとめ、はやる気持ちをおさえ、三脚にレンズをとりつけカメラをセットする。再び車を動かし数百メートル走る。定位置にとめ、ドアをしずかにあける。外に出て、ゆっくりとまわりをみわたす。いた！ / ~2m の高さに伸びたヒノキの間にスクッと立ち上がったツシマジカの姿。その距離7~80m。立派なツノをかざし、こちらを見すえている。微動だにしない。写真をとるのにはまだ光がたりず、シャッターを切ることはできない。

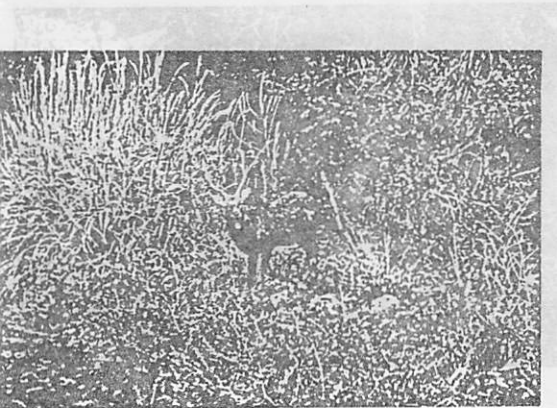
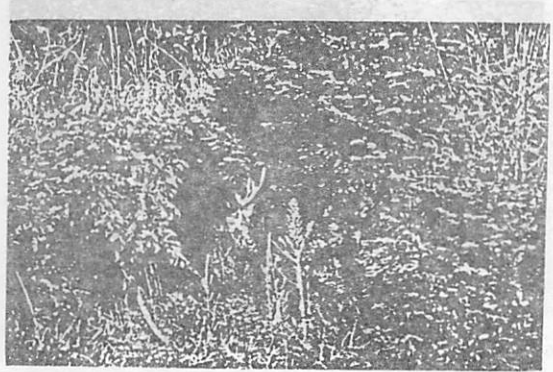
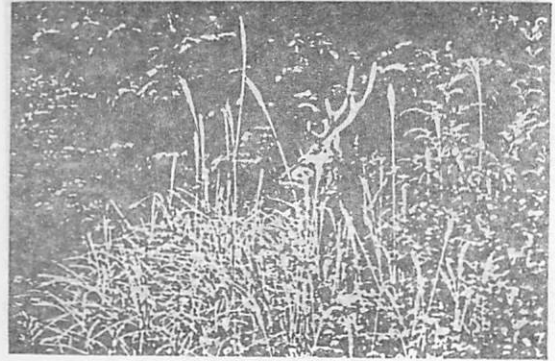
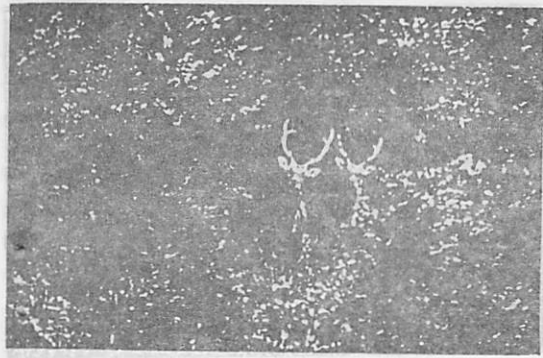
時間はすぎていく.....。

2年ほど前からツシマジカの写真を撮りに行くことがなくなった。というのも、ツシマジカの捕獲がはじまってから、行っても見ることもさえできなくなってしまったからである。

この写真は、数年間撮りためたもののうちから撮作であるが良いものをえらんでみた。すでに発表しているものも含まれるが参考として見ていただきたい。

今年は、保護区域外でのツシマジカの狩猟が認められた。大変にがにがしい気持ちで狩猟期が終わるのをまっている今日このごろである。

( 巖原中学校 )



ツシマジカの生態

群オス

